第５回　大田区基本構想審議会第２部会　議事要旨

日時	平成 19 年 12 月 18 日（火）　午後６時～８時
会場	大田区役所 201～202 会議室
出席者	幸田委員（部会長）、菅谷委員、宮澤委員、村松委員、柳ケ瀬委員（五十音順）
欠席者	菊池委員

１．開会

２．配布資料の説明

３．審議

【区民意見交換会について】

・ 基本目標や個別目標案などで「責任」という言葉が沢山出されている点が気になっていたが、意見交換会でも指摘があった。自己責任の時代が強調されているようで厳しい印象を与える。「責任」の捕らえ方、概念について議論する必要がある。責任を求められても対応できない弱者もいる。

・ 区民が負担感を持たないように言葉を工夫する必要がある。ところで、14 日の意見交換会では区民は何人参加したのか。

（事務局）

・ 参加者は 9 名だった。

（委員）

・ もっと多くの人に参加して欲しい。あと 3 回しかないが、参加者を増やすために行政にも工夫して欲しい。今回の審議会委員には女性の参加はそれなりにあるが、区民意見交換会の場合も、女性の参加しやすい時間帯にするなど、参加を増やしたい。女性の権利や力の活用をもっと取り入れる必要がある。

（事務局）

・ 傍聴が少なかったという意見を受けて、会場の近隣地域に呼びかけるなど、行政も努力していきたい。審議会の区民応募委員に今回、女性が 3 名参加されているのは良かった。

・ 「責任」についての指摘が出ているが、この点については審議会で議論いただけるとありがたい。

（委員）

・ 意見交換会であのような発言が出てきた背景には、基本構想が大田区の行政を対象にしたものか、区民も含めた全体を対象にしたものかという認識が共

有されていないことがある。対象となる範囲をはっきりした方が良い。

- 「責任」の意見は基本理念のところで出された。行政がやらなくてはいけないことが棚上げされるという懸念を持たれたのではないか。基本構想は行政の方向性、役割を示すものでもある。主語は「大田区」であるべきだと思う。
- 自治法に基本構想を定義づけたものがあったと思うがどうか。

（事務局）

- 基本構想については自治法に規定されている。

（委員）

- 「基本構想」は地域における企業、団体、市民、自治体など関係者全体でつくるもの、「基本計画」は行政が一方的につくるものという理解である。基本構想は「このような区でありたい」というイメージを関係者が構想として位置づけ、それを実現するための具体的なメニューを行政が策定する。
- 一般の人のなかで 20 年後の大田区ついて考えている人はまれであり、審議会という機会を得て、考えている委員との間で理解にギャップがあっても仕方がない。20 年後に向けて成長していきましょう。その過程で責任も生じますと考えてもらえたらよい。
- 「責任」については、脚注をつける、定義をするなど、誤解をさける工夫は必要だ。
- 基本構想は憲法と同様に、権力の暴走を抑止するという役割を持つ。「地域」はいろいろな場面で行政の下請けとしての使われ方をしてきた。しかし、実際ではそうではないことを示すべき。基本構想のなかで決めたことを実現する行政の責任が先に明記されるべき。
- 地方自治法の本旨は「住民が主役」であり、行政がそれをサポートすると考えるのが基本。全体の議論のなかで、区民の役割、行政の役割を整理したらよい。
- 今回の報告会では事前に準備をしてきた第１部会、第３部会と差が生じた。報告の形態はあれで良いか、反省を踏まえて考えたい。

【基本目標・個別目標について】

（事務局）

- 前回の委員会で決められたように、基本目標、個別目標について本日の委員会に先立ち、各委員にご意見を頂戴した。本日、ご欠席の委員のご意見について、簡単にご紹介したい。まず、個別目標を従来の検討に沿った３分野にするか（第 1 案）、ライフステージに応じて 3 分野を組み替えるか（第 2 案）という点については、どちらをとっても最終的な文章表現は変わらないと思うが、第 2 案のほうが具体的に施策につながりやすいと思うというご意見が

あった。基本目標については、地域とまちは同義語と考えているので、両方の併記に違和感がある。2 案の１が良い。個別目標 1 については、「親も子も共に成長できる健やかなまち」が、個別目標 2 については「だれもが自分らしく、いきいき暮らせるまち」が、個別目標３では「老いやハンディと上手に向き合い、心豊なまち」が良いというご意見を頂いた。

（委員）

・ 私も第２案を支持したい。
・ 分け方の問題だと思う。第１案の個別目標も並べてみると、具体的な施策をくるんで出来ているのではないかという印象を受けた。
・ いきいきという言葉は現在、広く使われているが、20 年後も有用かという思いがある。また、地域と行政の連携という言葉は不可欠だと思う。そこで、第 1 案の 4 に修正を加えて、「地域と行政の連携がみんなの暮らしを支えるまち」が良いと思う。
・ 最終的には作成する文章が命なので、どうしても沢山盛り込みたくなる。個別目標のまとめを基本目標と考えてやってみたが、厳しかった。下から上にいくことはできるが、上から下にいくのは難しい。説明文を先に作成し、それを抽象化するほうがやりやすいのではないか。
・ キャッチフレーズは最後にできるものである。例えば、広告でもキャッチフレーズは商品の特徴が出そろってから、それをみてつくる。今回、施策ごとのキーワードをみると「不安の解消」、「安心」が共通項として浮かび上がってくる。具体的な施策をみながら、それを貫くものを探すほうが良い。
・ 今まで、部会で個別の議論を重ねてきたのは、そういう意味があってしてきたのではなかったか。
・ ワードを検討するうえでは根拠が必要である。その根拠となるのは、施策ではないか。
・ 健康についても、介護についても、そこはかとない不安感があると私も感じている。不安を解消できるようにして欲しいというのはそのとおりである。
・ 捨てたくない言葉を残したものと、キャッチフレーズは一致しない。捨てたくない言葉は説明文に入れることとし、キャッチフレーズは方針とすると良いかもしれない。
・ 個人的には、ひとりで暮らせるまちが理想である。しかし、ひとりで暮らせるまちはひとりではつくれない。地域・行政・個人の連携が防犯、バリアフリーのまちを実現する。基本目標にはそれを入れたい。

（休憩）

・ 議論を進めるために、第 1～4 回の部会で出された意見のうち、これだけは

残したいというものを出し合って欲しい。

【健康・高齢者・障害者について】

- 「必要な時に十分なサービス」を挙げたい。一言でいえば「安心」である。
- 「誰もが大切にされる」、「健康で生きがいがある」を挙げたい。安心して暮らせる質の高い福祉サービスが重要である。また、「住宅の確保」、これは施策に含めることであり、キャッチフレーズに含めるものではないが、落とさないで欲しい。
- 「安心」という言葉は広い。趣旨を正確に理解してもらえるか悩ましい。
- どのような意味合いを込めるかは説明文のなかで展開すればよい。

【子育て・学校教育について】

- 子育てでは「子どもをまもり・育てる環境」、「幅広い地域活動の担い手の発掘」を挙げたい。学校教育では「教員が本来業務に専念できる」と、「社会性」、「規範意識」を入れたい。また、大田区の実態を考えると、「地域の実情に応じた柔軟な対応」も必要。ネグレクト等を含めると「みんな」のなかには家庭も入っている。個別目標のキャッチフレーズとしては「未来を担い、地域を支える子どもをみんなで育てるまちにします」が良いと思う。
- 昨今の事件を思うにつけ、命の重みを知って欲しいという気持ちで一杯だ。なので、キャッチフレーズとしては「安心して産み育てられ、子どもが主役のまちが未来をつくります」が良いと思った。
- 子どもを大事にすることには異論はないが、「子どもが主役」を前面に出すのはどうかと思う。子どもが中心という誤解を招くものは避けたい。
- 精神面でも健康面でも「元気」というのは良い言葉であり、親の強い願いではないか。「元気な子どもたちをみんなで育てる」はどうか。
- 「安心して産み育てられ、子どもが主役のまちが未来をつくります」がよい。「命」という言葉にはインパクトがある。
- 「開かれた学校づくり」も、地域とのかかわりという点からは、キーワードとして落とせない。

【生涯学習について】

- 前部会長からは、社会教育や行政の役割の見直しが提起され、施設の活用やボランティアに関する討議を行った。生涯学習の出口がボランティアなのはいかがかという意見が出された。
- 個別目標の柱の 1 つが生涯学習というのは無理がある。なので、自分は第 2 案を支持した。
- ここでは、居場所づくりと考えたらよい。気楽に自然発生的に始まる活動が

と良いと思う。

- 区民の生活を 3 つに分けるのであれば、「子ども」、「高齢者」、「病気・障がい」ではないか。
- 保険・医療・福祉の連携が必要という観点から、分野横断的なものがあって良い。部局の縦割では対応できない事象が増えている。20 年後はもっと増えるはずである。行政の縦割りを前提とした目標を設けるのはちがうのではないか。
- 得たものの社会還元は難しく考えるのではなく、退職後、経験を生かすための場の提供くらいに考えたらよい。以前、女性の場は多いが、男性の場は意外と少ないという話をしたが、まず、みんなで集まれるということも重要である。
- 私は団塊世代のサロンをやっている。参加者は徐々に増えて、50 人ほどが集まるようになっている。現在はゲストをよんで、講演をしていただいているが、最終的にはゲストではなく、参加者が講師になって話をするようなことを考えている。
- 文化、教育は第 2 部会に含めるべきである。郷土愛を育むために、文化財を大事にするという視点も大事である。
- 今後、基本目標、個別目標をどのようにつめていくかであるが、部会長案として、次回の委員会までに、第 2 案をベースに、説明文も含めた個別目標のたたき台を準備することとしたい。お正月の宿題とし、次回、1 月 18 日の専門部会までにはお手元に届けることとしたい。まとめるにあたっては、区民との意見交換会での意見も参考にする。
- 議論では、なかなか進まないので、それが良い方法だと思う。

４．事務連絡

５．閉会